

※1

## クリーム

1960年代後半に活躍したイギリスのサイケデリック・ロック/ハード・ロック・バンド。若き日のエリック・クラプトンが在籍していた。「クロスロード」はアルバム「クリームの素晴らしい世界」に収録。

※2

## ディープ・パープル

1970年代から活動しているイギリスのハード・ロック・バンド。メンバーを次々に交代し、現在も現役活動中。「スモーク・オン・ザ・ウォーター」はアルバム「マシーン・ヘッド」に収録。当時のギタリストはリッチー・ブラックモア。

※3


## ビートルズ

ポール・マッカートニー、ジョン・レノン、ジョージ・ハリスン、リンゴ・スターの4人によって結成された、イギリスのロック・バンド。1970年に解散。著者のお薦めアルバムは「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」。

## “探り弾き”を卒業しよう！

どうもこんにちは、宮脇です。これから全10回に渡って、みなさんと一緒に音楽理論とは何か、どうやって勉強すればいいのか、譜面はどうやって読むのか、ギターを弾くのにどう関係するか……などなど、いろいろなことを勉強していきたいと思います。今回は最初なので、実際に何か覚えたりするよりも、これからどんなことをするのか、それによってどんなメリットがあるのかを話していきたいと思います。その上で、みなさんからの質問にも答えていきますので、何かあれば遠慮せずに言って下さい！

ギター、特にエレクトリック・ギターを弾いている人は、譜面が物凄く苦手だったり理論が大嫌いということが多いんです。でもペンタトニック・スケールでアドリブを弾いたりするのは、意外とすぐにできるようなるんです。例えばクリーム\*1の「クロスロード」だとかディープ・パープル\*2の「スモーク・オン・ザ・ウォーター」をちょっとコピーしてみて、アドリブを当ててみたりとか、そういった感じでは結構うまく弾けるといっているんじゃないかと思っています。でも、ペンタだけでアドリブを弾ける曲は何とかなっても、例えばビートルズ\*3みたいにコードがどんどん変わっていく曲にカッコ良く伴奏をつけたり、曲に合わせてアドリブを弾いたり、そういう時にペンタだけでは対応できない……そのあたりで踏みとどまっ

ているギタリストがすごく多いんです。アドリブを弾くにしても、僕はレッスンで“探り弾き”と言っているんですが、なんとなくスライドとかで音を探りながら弾いていて、最終的には何を弾いているんだかわからなくなってしまうという人が非常に多い（笑）。ちょっと弾いてみましょうか。これがわりと普通に理論的にコードを意識しながら弾いたソロで、こっちが探り弾きです。つたない感じが誰にでもわかりますね（笑）。 で、理論の本なんかには“コード進行を理解して、コードに沿った音を選びましょう”って書いてあるけど、どこから手をつけていいのかわかりづらいし、何年経ってもペンタで探りながら弾いてるといようなケースが至るところで見られます。

## 理論はオリジナリティを殺す？

このセミナーでは、今回を含めて10回で、ギター弾きのみなさんがわかりやすいように、ギタリストの視点から理論を克服していくって感じで進めていきますんで、この機会に何かを掴んでステップアップしていただければ、と思います。

そして、ギタリストが音楽理論を勉強しようと思った時、楽譜が読めない、または苦手であるというのも大きな壁になりますから、あとの回では楽譜の読み方、譜面に対する苦手感の克服法も紹介していきますね。

では今回は初回ですから、みなさん緊張してらっ



しゃるようですし、あらかじめプロフィールと一緒に書いていただいていた質問や疑問に答える形で授業を進めていきましょう。まず最初の質問です。

**音楽理論を覚えてしまうと、  
音楽理論的な演奏や作曲しか  
できなくなるのでしょうか？**



はい、なるほど。この質問は、理論アレルギーがある人の典型例のひとつと言っていいでしょうね。まず、音楽理論を知ると何が良いんだろう？っていうのが曖昧だとかこういう悩みが出やすいですね。

この先、理論を学んでいくことでどう役に立つかっていうのは各々のイメージがあると思うんですけど、ギタリストとか演奏者にとっては、ミュージシャン同士で集まってセッションをするという時にコード譜だけでアドリブが弾けたり、コードを差し替えたりして曲を盛り上げたりとか……そうやって理論を知っていることで、演奏の幅を大きく広げることができるんですね。あとは他の人の演奏や作曲なんかを研究して、自分の中に取り込んでいったり、あるいは逆に自分の嫌いな曲にならないよう、違うことをやってみたりということができるようになります。

でも、“音楽理論を勉強してみようかな”なんて思っていると、例えば先輩とかメンバーなんかから、“理論なんかより、自分のオリジナリティを磨けよ”とか“スケールなんか自分で作っちゃえば

いいんだよ”なんて言われちゃうケースも、よくあることです（笑）。“理論的なことを学ぶことでオリジナリティが失われてしまう”と思って、あえて勉強したくないという人もたまにいますね。僕は、それは大きな間違いだと思っています。音楽の仕組みを理解して、いろんな人のプレイを研究してくと“俺だったらこうやるのにな”っていう違和感が積み重なっていきます。それが個性を築き上げていくんです。勉強するくらいで消えてしまうような個性は、始めから個性っていうほどのものでもなかったんじゃないかな。だから、他の人が何を考えて音楽をやっているか、世の中にどんな音楽理論があるかというのは知れば知るほど良い、というのが僕の考えです。中途半端に知るから良くないんですね。最初から、辛口トークになっちゃいましたけど（笑）。

とは言え、今日来ていただいた方はみんな何かしらの問題意識があって理論を勉強したいと思っているわけですから、とりあえずちょっとだけでもかじってから役に立つかどうか考えればいいんじゃないでしょうか。で、冒頭の質問の答えとしては簡潔に“そんなことはありません！”とお答えします（笑）。では次です。

**音楽理論を勉強すると  
ジャズのアドリブも  
できるようになりますか？**

